

● 部門の特色

基本理念 「患者のQOL改善を目的とした責任ある薬物療法を提供する」

1.働き方改革の実施

- ① 調剤・製剤・注射・医薬品情報等の業務を行った上で、すべての病棟に薬剤師を配置し、薬物療法に積極的に関与するとともに、入院前から入院中、退院後も含めたシームレスな連携を推進する。
- ② 薬剤師職能を発揮しチーム医療において中心的な役割を担えるよう努める。
- ③ 急性期医療を支援するジェネラリスト及び小児・妊産婦・救急・感染制御・疼痛緩和・代謝疾患・循環器疾患・がん等のスペシャリストを育成する。

この3つの基本方針のもと、以下の業務を中心に行っている。

- 1. 入院患者やご家族への薬学的管理(病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務、薬剤情報提供業務)の提供
- 2. 医薬品の適正使用の促進
- 3. 副作用報告(安全性情報)の収集・周知、厚生労働省への報告
- 4. 院内製剤・無菌製剤(IVH、抗がん剤)への取り組みの充実
- 5. 治験及び臨床研究の推進
- 6. スペシャリスト育成のため各種研修会への参加、学会発表、論文投稿の促進
- 7. 大学薬学部との共同研究の推進
- 8. 保険薬局など地域連携の強化
- 9. 医師業務のタスクシフト

● 認定資格取得状況(2024年4月1日)

- ・妊婦・授乳薬物療法認定薬剤師 (1名)(日本病院薬剤師会)
- ・日病薬病院薬学認定薬剤師 (10名)(日本病院薬剤師会)
- ・がん指導薬剤師 (2名)(日本医療薬学会)
- ・がん専門薬剤師 (2名)(日本医療薬学会)
- ・外来がん治療認定薬剤師 (1名)(日本臨床腫瘍薬学会)
- ・認定CRC (2名)(日本臨床薬理学会)
- ・認定GCPパスポート (1名)(日本臨床試験学会)
- ・抗菌化学療法認定薬剤師 (1名)(日本化学療法学会)
- ・NST専門療法士 (1名)(日本臨床栄養代謝学会)
- ・日本糖尿病療養指導士 (2名)(日本糖尿病療養指導士認定機構)
- ・小児薬物療法認定薬剤師 (1名)(日本薬剤師研修センター)
- ・心不全療養指導士 (2名)(日本循環器学会)
- ・周術期管理チーム認定薬剤師 (1名)(日本麻酔科学会)
- ・認定実務実習指導薬剤師 (6名)(薬学教育協議会)
- ・スポーツファーマシスト (1名)(日本アンチドーピング機構)
- ・DMAT 隊員 (2名)(厚生労働省)

● 薬学教育

実務実習生受入れ(11週間) 10名(薬学部5年生)

薬剤師インターンシップ 0名

● 業務実績(年間)

	処方箋枚数	院内	院外
外来	調剤	13,077 枚	82,343 枚 (院外処方発行率:86.3%)
	注射	70,066 枚	
入院	調剤	140,704 枚	
	注射	622,156 枚	
外来	薬剤情報提供件数		9,618 件
	がん患者指導人数		214 人
	がん患者指導管理料ハ請求件数		37 件
	入院時支援加算請求件数 1(薬剤師が関与)		1,009 人
入院	薬剤管理指導件数		16,413 件
	請求件数 1(ハイリスク薬管理)		8,819 人
	請求件数 2(1 以外)		7,594 件
	麻薬管理指導加算		323 件
	入院(持参薬)鑑別件数		9,055 件
医薬品情報	CoMedix の更新・伝達		80 件/年
	医薬品安全性情報報告件数(厚生労働省への報告)		1 件/年
	DI ニュース発行件数		4 件/年
院内製剤・無菌製剤	TPN 調剤件数		1,396 件
	抗がん剤調整数		8,946 人
	無菌製剤処理料1 請求件数		9,175 件
	無菌製剤処理料2 請求件数		3,993 件
	外来腫瘍化学療法診療料 1		2,251 件

		全体	内服薬	外用薬	注射薬
医薬品管理	全品目数	2,387 品目	1079 品目	309 品目	999 品目
	後発医薬品数	508 品目	313 品目	55 品目	140 品目
	後発医薬品比率品目割合	71.7%	74.9%	61.1%	69.7%
	後発品比率(数量ベース)	93.1%	93.8%	77.8%	86.5%

治験管理室	治験・製造販売後臨床試験	実施プロトコル数	64 件
		実施症例数(新規)	50 名
	製造販売後調査等 (使用成績調査・特定使用成績調査)	新規受託課題数	10 件

● 研究実績

論文

- 1) Koga K, Tasaka Y, Nawa H
Cross-Cancer Type Evaluation of Potential Interstitial Lung Disease Complications of Immune Checkpoint Inhibitors Using JADER
BIOLOGICAL & PHARMACEUTICAL BULLETIN, 47, 7, 1296-1300, 2024, JUL
- 2) Mori S, Maiguma T, Yoshii K, Moriya Y, Takada R, Shinkai F, Haruki Y, Hashimoto H, Komoto A, Takayanagi K, Tamura K, Okura Y, Sugiyama T, Shimada K
Effect of the thyroid transcription factor 1 expression and treatment discontinuation due to adverse events on progression-free survival in patients with advanced non-squamous non-small cell lung cancer treated with pembrolizumab plus pemetrexed and platinum chemotherapy: a Japanese four-hospital, retrospective study
American Journal of Cancer Research, 14, 8, 2024
- 3) 田頭 尚士
【加算算定までつなげる! 外来がん治療の「病-薬連携」】外来頻用レジメンの「病-薬連携管理」-加算算定までつなげた実例集 治療完遂へのアプローチ: 発熱性好中球減少症対策
治療レジメン TC 療法 薬局, 75, 7, 1071-1074, 2024年 6月 5日
- 4) 星島 祐美子, 増本 文, 上野 杏菜, 古賀 和馬, 荘原 紀香, 田頭 尚士, 大倉 裕祐, 清水 順也, 高橋 雄介
小児腎移植患者における薬剤管理サマリーの有用性の検討
日本小児腎不全学会雑誌, 44, 75-79, 2024年 8月 1日
- 5) 古賀和馬, 田坂裕一, 名和秀起
有害事象自発報告データベースを用いたニボルマブ使用と薬剤性間質性肺疾患合併に関するがん種横断的評価
就実大学薬学雑誌, 12, 27-26, 2025年 1月 31日

学会発表

- 1) 令和6年度能登半島地震でのDMAT本部活動 ~高齢者福祉施設のリエゾン活動を経験して~
唐川 雅生
第78回国立病院総合医学会 2024年 10月 18日
- 2) 周産期メンタルヘルスにおける薬剤師の関わり
赤阪 未来
第34回日本医療薬学会年会 2024年 11月 2日
- 3) 令和6年能登半島地震における国立病院機構(NHO)医療班活動、DMAT資格を持つ薬剤師の活動報告
古賀 和馬
第78回国立病院総合医学会 2024年 11月 16日
- 4) JADERを用いた免疫チェックポイント阻害薬による薬剤性間質性肺疾患合併に関するがん種横断的検討
古賀 和馬
第63回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会
2024年 11月 16日
- 5) 血液透析患者の糖化アルブミン偽性高値にリブレのAGP並びにGMIを用いた有用性の検討
谷 聡美
第62回日本糖尿病学会中国四国地方会 総会 2024年 12月 7日
- 6) ペムブロリズマブ投与中にぶどう膜炎をきたした転移性乳癌の一例
田頭 尚士
第14回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2025年 3月 16日

講演、研究会

- | | |
|---|------------|
| 1) Schemes2 第3回抗がん薬曝露防止ワークショップ
田頭 尚士 | 2024年6月25日 |
| 2) 第21回日本乳癌学会中国四国地方会
田頭 尚士 | 2024年9月21日 |
| 3) おかやまがん化学療法薬・薬連携セミナー
田頭 尚士 | 2024年9月27日 |

座長

- | | |
|--------------------------------|------------|
| 1) 多発性骨髄腫 薬剤師向けセミナー
田頭 尚士 | 2024年5月16日 |
| 2) 第4回抗がん薬曝露防止ワークショップ
田頭 尚士 | 2024年10月9日 |